

生涯現役ボランティア

海陽町社会福祉協議会 前野 洋子

高齢者のもとより、これから年齢を重ねていくすべての方々が、豊かな知識や経験、技術を活かして、生涯を通じていきいきと活躍できる社会づくりの必要性を感じている今日この頃ですが、海陽町の生涯現役ボランティア西宮末香さん（89歳）を紹介します。

西宮さんは、10年前に「平均年齢80歳！」で県下に名を轟かせた、知る人ぞ知る手作り人形劇団『奥浦熟年座』の一人ですが、活動メンバーが1人、2



人減っていく中で活動は休止。昨年ご主人を亡くされてからは、気分も沈みがちになっていました。

そんな中、「西宮さんの力と人形をお借りしよう！」と、西宮さんの教え子や、読み聞かせボランティア、ご近所さん…とユニークな仲間が集い人形劇団を結成しました。（私もメンバーの1人ですへへ）

活動を再開した西宮さんは、日々元気になってきました。当時をふり返り「生きる気力が無く、何もする気が起こらなかった。不思議やけど、今では埃が被っていたミシンまで使えるようになってきた。」と素敵な笑顔を満面に浮かべています。そして、西宮さんの周りに笑顔が広がっています。

前野洋子さん

海陽町社会福祉協議会 地域福祉課長
「障害があってもなくても、みんな一緒に。」を合い言葉に、おもちゃの図書館活動から地域共同作業所の設立支援。現在は、乳児から高齢者まで地域全体が継続的にボランティアを学び・実践できるように取組中。



援助の形 マンパワーか、後につながる援助か？

NPO法人TICO代表 吉田 修

平成元年、青年海外協力隊に参加しアフリカの小国マラウイの国立病院に外科医として赴任した。入院患者が800人超に対し医師はわずかに5人、外科医は私一人である。当然のことながら非常に忙しく、手術に明け暮れた2年間であった。若い外科医にとって、「手術に明け暮れる」ことは「やりがい」があり、特別な緊張感・充実感の毎日であった。

残念ながら亡くなった患者さんもおられるが、救命できた患者さんもたくさんいる。極端な人材不足の状況でマンパワーとして働き、多くの患者さんを救命できたことで、大いに貢献できたと思う。



吉田 修さん
外科医（自称兼業農家）
NPO法人TICO（ティコ）代表
アフリカをはじめ世界各国にて国際医療援助活動を実施。現在吉野川市山川町のさくら診療所で地域医療を実践しながらTICOを運営。

しかし任期終了時に後任を要請したが応募者がなく、国立病院に外科医がいない事態となった。任期中、夢中で働いたが、外科の技術を伝える相手もいなかったため、まさに無に帰してしまった。この2年間は何だったのかという思いが残った。

出国時、空港の職員が話しかけて来た。「ドクター吉田、父がお世話になった。手術のおかげで今も元気だ。Zikomo（ありがとう）」

